

平成27年度第3回新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議 「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」の概要について

平成27年度第3回新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」を平成28年3月17日（木）に開催しました。

推進会議には、6名の委員（全委員）にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして特定非営利活動法人Mブリッジ理事長の米山 哲司様にご出席いただきました。

なお、推進会議の概要は、以下のとおりです。

「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、50音順、カッコ書は役職

大久保秀樹（公益社団法人みえ犯罪被害者総合支援センター事務局長）

川北 輝（特定非営利活動法人津市NPOサポートセンター理事長）

小堀 正一（三重県視覚障害者協会会員）

高橋 幸照（水土里ネット立梅用水事務局長）

舛本 大輔（国立大学法人三重大学大学院医学部院生）

和田 京子（特定非営利活動法人伊賀の伝丸代表理事）

＜ファシリテーター＞

米山 哲司（特定非営利活動法人Mブリッジ理事長）



＜推進会議の進行概要＞

会議の大きな進捗は次のとおり

開会 15:00

戦略企画部企画部長あいさつ

- 1 平成27年度の取組状況について
 - ・平成27年度第2回推進会議の概要
 - ・平成27年度推進会議（全体）の状況
- 2 協創プロジェクト事業概要について
 - ・平成27年度県民力を高める絆づくり協創プロジェクト事業概要
- 3 意見交換
 - ・県民力を高める絆づくり協創プロジェクト推進会議の成果について

閉会 17:00

（戦略企画部長あいさつ）

竹内戦略企画部長から、今回の会議の目的等について説明いたしました。

- 1 平成27年度の取組状況について
 - ・ファシリテーターの米山さんから平成27年度2回の推進会議の概要を説明いただきました。
 - ・新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議（全体）の開催状況を事務局より説明しました。
- 2 協創プロジェクト事業概要について
 - ・プロジェクトの平成27年度事業の進捗状況を関係課から説明しました。
- 3 意見交換
 - 県民力を高める絆づくり協創プロジェクト推進会議の成果について
 - ・このプロジェクトで取り組んできた成果のとりまとめについて、事務局および関係課から案を示し意見交換を行いました。

※委員から出された主な意見は、次のとおりです。

ア) 実践取組1「次代を担う子ども・若者の県民力を高める絆づくり」

○昨年度の推進会議で学生が行政や地域など外につながっていける仕組みがあればよいという意見を言ったが、今年度「『学生×地域活動』サポート情報局」という仕組みができ、大学の後輩達にも伝えていくことができる。

○農村の資源を活用した多面的機能支払制度の取組は、人口が減少する中で、集落を越えたコミュニティを形成して行うことで、より幅広く子ども達にも参加してもらうことができ、農村の活性化につながる。今後は、企業や学生など外部の人に活動に参加してもらえれば、より活性化されたコミュニティになると考える。

○犯罪被害に対する取組では、性暴力被害も飲酒運転による被害に対する取組も重なる点があり、関係課が連携することでより効果的な施策となる。

○犯罪被害者支援の取組や飲酒運転ゼロをめざす取組、多面的機能支払制度の取組などを、「『学生×地域活動』サポート情報局」のプログラムに入れることで、活動につながると思うので連携してもらえるとよい。

イ) 実践取組2「さまざまな事情で支援が必要な県民の皆さんの能力発揮・参画の支援」

○多文化共生をさらに進める上では、例えば県からの委託事業の仕様についてもNPOや社会福祉協議会などと話し合えるような「協創」の場があれば、より事業効果が高まると思う。

○障がい者芸術文化祭は芸術を通じて外部との接点をもつことが目的だが、障がい者団体や関係者等の範囲に収まってしまっているため、障がい者と社会との接点ということについて今後考えてもらいたい。



ウ) 実践取組3「『美し国おこし・三重』の新たな展開」

※委員からの意見はありませんでした。

エ) 実践取組4「NPOの活動を支える仕組みづくり」

○防災ボランティアについてはよく取り組まれていると思うが、NPOの自立した活動を支える基盤づくりについては、今後の取組方向が指定管理者頼みとなっている。NPO担当課としてこうすればNPOがよくなり、三重が豊かになるというビジョンを示してもらいたい。

○「協創」について、何と何が協働し、何を創造していくかという点で、仕組みや場をつくることを丁寧に行っていく必要があるが、さまざまな方が集う場が見あたらないと思っている。

(事務局)

○推進会議は今回で終了となりますが、委員から出された意見を参考にプロジェクトの成果案を取りまとめるとともに、「成果レポート」の第1章(選択・集中プログラムの総括)において、4年間のプログラムの成果、残った課題を記述していきます。また、関連する施策や事業の推進に反映していきます。